

海 (かいし) 市

No. 26

● 詩

02 横山 仁 おにいさん、こちら

06 前田 勉 誕生日

● エッセイ

10 細部俊作 「シリアの秘密図書館」を読んだ

14 佐藤ただし 水田とツバメ (24)

17 横山 仁 雑記 (26)

おにいさん、こちら

横山 仁

いつからか

かぞえることをしなくなった

月

が

鍵をかけ忘れた便所の戸が

急に開くように

わたしをよんでいるのかもしれない

おにいさん、こちら

キンカクシ

のうしろに隠れたわたし
の袖を引っ張る音が
きこえる

おにいさん、こちら

息苦しい

唇

の白い景色のなかでは

おおくの多喜二が殺されていくよね

甘い水の死

隠された死

数えられない死

証拠に残らない死

閉じ込められた死

あなたの死

わたしの死

を演出する

夜行百鬼

の

金の船*

どこで沈むのやら

おにいさん、こちら

*たとえば、製薬業界からバイデン米大統領への二〇二〇年の政治献金は約九億。

**「小路・夏の午後(3)」(前田勉詩)に
詩的シェディング、ならぬトランスミ
ッションされて。

【補記】

「あきたの賦」に掲載されたが、注をすべて削除してしまった。マスゴミの魁にとっては、バイデンが製薬業界から政治献金をもらったなどということは、隠しておきたいのかもしれない。(日本の、たとえば菅元首相などへの政治献金については、資料がないので使えなかった。関連記事として、インフルエンザを仕組んだのが、ブッシュやラムズフェルドらで、タミフルの八割が属国日本で売却処分されたともいわれている。follow the money.)

シエディングについては、ワクチン接種者の副作用のようなものが、ワクチン未接種者へ伝染する意味を込めている。

行数の制限で縮めたところなどを訂正し、再録した。

誕生日

前田 勉

長い廊下の両側に並ぶ扉を数えながら
ひとり歩いていた

ある時の

取り違えた夢に入り込んでから
時間は同じところで巻き戻され

都度

また数え直してきたような気がする
扉が何なのか

数えることをなぜするのか
は

知らない

何も知らないまま

ただこの長い廊下を歩いている

誕生日の

朝

枯枝に垂れ下がり

ぐにやりと弛緩したダリの時計が

誰かに会えないまま過ぎてしまった時刻を

重々しく告げると

課された夢見物語が

一瞬にして幕を下ろした

昨年はどうだった

人の気配がして振り向くと

ジョバンニが笑っている

会ったこともないのに

なぜあなただと分かったのだろうか

彼は私を知っているはずがない

念のため心だけはきつちりと閉めておこう
笑ってみるのもいいのかもしれない
そう思ってもう一度顔をあげると
かの「記憶の固執」が時を報せた

昨日はこうだ

鏡が取り付けられた扉の前で

その鏡を覗き込んでみると

見たことのある誰かの顔に似すぎていて
きつと

記憶から遠い因子は巧みに記号化され

それは紙片で切り裂いてしまった指先の

辛い痛みのように漏れ出すのだと確信した

いつだったか

だれかが言い出した

喪失感でも倦怠感でもない

不確かな心地よさ

を感じながら

伝えてみたい

誰かに

と思った瞬間

誕生日前夜だからと前触れがあつてから

聞きなれない鐘がなつた

長い廊下の両側に並ぶ扉を数えながら

ただ歩いている

なぜひとりで歩いているのかは

知らない

扉が何枚あつたのか

なんて

憶えているはずもない

「シリアの秘密図書館」を読んだ

細部 俊作

デルファイヌ・ミヌーイ著

藤田真利子訳 東京創元社 二〇一八年刊

二〇一〇年暮れに北アフリカのチュニジアから始まった民主化運動（アラブの春）が中東シリアに波及したのは翌年三月だった。独裁を続けるアサド大統領の退陣を求めるデモが行われ、それ以降、弾圧が激化していく。そして、二〇一二年一月になると首都ダマスカス近郊にあって、反政府活動の盛んな町ダラヤが封鎖された。

二〇一五年一〇月、著者は、町の地下で密かに図書館活動をする二、三〇代の若者たちを偶然知ることとなり、以後、インターネットを通じて彼らへのイン

タビューを続け、それをもとにこの本がつくられた。

町の封鎖から停戦、強制退去までの四年間、政府はダラヤに対して、容赦のない攻撃をした。ナバーム弾、数限りない樽爆弾や焼夷弾、ミサイルを放ち、サリンガスを拡散させた。あるときは援助物資の到着を待つ市民への迫撃砲攻撃、二五〇人ほどの市民虐殺。一時停戦の際には、飢えた八千人の待つ場所へ食料品、医薬品などを運ぶトラック数台を攻撃した。独裁者は、自らの権力を脅かそうとするなら、自国民に対してさえも暴力の限りを尽くすということの恐ろしい例をみるようだ。こうした攻撃によって、封鎖の時に二五万人だった市の人口は、国内外への避難や爆死によって、三年後には一万二千人にまで減った。

若者たちが本の収集を始めたのは封鎖後間もなくだった。彼らは破壊された町を回って本を集めた。捨てられた民家や事務所、モスクなどから本を探し出し、汚れを拭きとり修復した。ダマスカス大学の元学生で二三歳のアフマドは、根っからの本好きではなかったが、この活動に加わって最初に本を拾ったときは、「自

分の中のすべてが揺れ始めた。知の扉を開いたときの心を乱すざわめきだった。一瞬、紛争の日常から逃れる感覚、たとえわずかでも、この国にある書物のひとかけらを救ったという感覚。そのページを潜り抜けて未知の世界へと逃げだすような感覚だった」という。

本書の口絵写真には、地下の図書館内で本を前に語らう若者たちや土嚢を積んだ壁を背にして本を読む若者が映っている。約四〇人のボランティアが一カ月かけて集めた本は一万五千冊にもなった。この本で公共図書館を作りたいと皆が思うようになった。

図書館は九時から一七時まで開いた。一日の平均利用者は二五人ほど。人気があったのはパウロ・コエリヨの「アルケミスト」、アラブの詩人の愛の詩、シリアの神学者の本、シェークスピア、モリエール、マルセル・ブルースト、南アフリカ人作家の小説、サン・テグジュペリの「星の王子さま」、ある米国人の「七つの習慣」といった自己啓発本などだった。

ダラヤはもともと自治意識が強く、評議会が町の行政を担っていた。評議会は、いくつかの部局で構成

され、行政、軍事、司法、財政、各部局に広報がおかれ、保健、住民サービスまであった。封鎖後も、政府軍からの様々な攻撃を耐えていたのは、その組織がしっかりとっていたからだという。

評議会は、小さな衛星アンテナを設置した。これでインターネットに接続し、多くの哲学や政治学の本がダウンロードでき、利用者は自分の携帯電話で読むことができた。国内の不安定な時代に通信環境を整えていたという先見性には感心させられる。

若者たちにとって本とはどんなものだったろうか。
・戦争は人間を変えてしまう。本を読むのは人間であり続けるためだ。

・封鎖された町の閉ざされた空間で一緒に生活することから生じがちなストレスや集団生活を理解するために、他人をどう受け入れるか、健全な対抗意識の雰囲気はどう維持するかなどを学んだ。

・一九九〇年代のボスニア・ヘルツェゴビナ紛争では一―万五千人が犠牲になり一五〇万冊の本が焼かれた。その記録を読み、自分たちより前に同じ困

難を経験した人たちがいたと知った。自分たちがひとりぼっちではないと知り、少し強くなれた気がした。

・『レ・ミゼラブル』の映画をネットで観た。フランスはこの革命によって社会正義、デモクラシー、人権を勝ち得た。この映画は自分たちの希望となった。

・歴史の記憶を根絶やしにしようとする独裁者に対抗する読書になった。

・爆撃という暴力や日常的に死と向き合う状態に距離を置いて、一定の正常さを回復しようとした。

彼らの読書は、死と隣り合わせの日々の心のよりどころだったのだろう。読書によって平常心を保とうとしたり、閉鎖空間で集団生活を過ごすときにストレスに陥らないような仲間との関係のもち方を学んだり、歴史上の革命の映画や記録を読んで、そこに自分たちを重ねて奮い立たったりもしたようだ。

このようなことは、遠く離れた日本にいと、正直いって映画をみるようなものだけれど、それがつい数年前までのアフマドたちの現実なのだと思った。

二〇一六年八月、ダラヤはついに降伏して政府との停戦に合意した。ダラヤに残っていた市民武装兵や民間人八千人はトルコ国境に近いイドリブへ移送されて四年間の内戦が終わった。

しかし、アフマドたちはこれで終わらない。イドリブに移った彼はこう語る。「町は破壊されても考えを破壊することはできない。政府は革命の肯定的で知的な痕跡をすべて消そうと躍起になっている。でも僕はこれほど自分が自由だと感じたことはない。誰にも奪われない記憶をもっているから」。危険の中でデモクラシーを求めて活動を続けるうちに、こうした思考を身につけていたということに、何か貴いものを感じる。そして、彼はイドリブの子どもと女性たちのためにバスで巡回図書館を始めた。巻末にはバスや本を読む子どもたちの写真が載っている。それは記憶が未来をつくるためのよりどころとなり、自分の思考や行動の力になるという例を示しているように思われた。

*

そのイドリブで、今年一〇月二〇日、通学途中の子供や教師、一般市民一〇人が攻撃で死亡したという報

道があった。様々な民族、宗教、それに複数の隣国の入り混じったシリアの内戦は、実はまだ終わっていないのだった。

水田とツバメ（二四）

佐藤ただし

・時間を耕す

会社勤めをしていた頃、吉野弘の「たそがれ」という詩にある

他人の時間を耕す者

という一行を時々思い出したりしていた。

会社は他人の場所であり、仕事は忙しかったので自分の時間を耕せるのは退職してからだと思っていた。そして退職後は家の田畑を作っているが、それでも、どうかそれで全てが収まったという訳ではない。なんとなく考えていたことと現実が乖離しているようなものがある。

そうした状態を金子兜太は、「浮遊」と呼んでいる。『常民は、なんとなく常住のなかにいて、なんとなくむなしのおもいのままに浮遊している。流行歌ではないが、まったく、「ただ、なんとなく」日々が過ぎてゆくのである。いや、過ごすことができてしまうのだ。』【定住漂泊・原郷と現実から引用】

この浮遊の正体は原郷のイメージと現実とのズレということらしい。自分の時間を耕すことによって得られると思っていたこととそうはならない現実とのズレが意識の浮遊感を生むということか。

『二人の人生は短いようで、やや長い。一瞬の生の花火も、現在の充実も、やや長い生の時間の中に、いつかは解消されていって、その後にのこるものは空白——浮遊する自分の姿が底に映っている水の広がりなのだ。常民は、やや長い生のあいだも、それこそ、死の直前までも、死を消しておこうとするから、その水の広がりのおとずれを避けることはできそうもない。』

【同】

この水の広がり（無）ということらしい。金子によれば『無に徹し、我欲を捨て衣食住に執着せず、ひ

たすら、自分の（へこころ）の奥底に這入ってゆく。その道を歩き続ける。』【同】とあるがそれは至難の業で、簡単に出来ることではない。普通に機嫌よく暮らして行ければそれでいいのだが。

田んぼの稲刈りが一段落した後、自家用野菜を植えている畑に行った。ダイコンやカブ、ニンジンなど、夏に蒔いた野菜の葉が青く伸びていた。ジャガイモやタマネギを収穫した後、畝を作っておいた場所は、草が徐々に生え、土を覆い始めていた。

畑に屈んで草の根の下に鎌を入れて少しずつ引き抜く。それをポリバケツに入れる。秋の草は、草丈は短いがしっかりと小さい花を咲かせ、実をつけているものもある。

引き抜いた草の根の下にいるミミズや根切り虫は動かず、眠っているようだ。土の中の生き物や、砂や粘土で構成されている土を見ていると、普段は忘れていた土のことは見直すことができる。

しばらく草取りをしていると、畑の一部が地肌を出し、気持ちや和らぐ。幼児が無心におもちゃで遊ぶよ

うな、こうした時間が自分を耕すということだろうと思つた。

土の産物

一〇月末に同人のJ氏から養老孟司の講演会があると教えてもらい、聞きに行った。今回の講演のテーマは「心を保つ」で広い会場には多くの聴衆が集まっていた。

養老氏は心を保つには、嫌なものには近寄らない。こだわらない、とらわれないことなど、長く一緒に暮らしていた猫を例に話していた。私を含めそうした話を聞きに、このコロナの状況下でも多く集まってくるのは、皆それぞれに問題を抱え、解決の糸口を求めているからだろう。

養老氏は子供の頃から虫好きで、今も虫を捕りに行かれています。講演の日の前日も四国の高知の子供たちと虫捕りをしてきたと話していた。各自がこうした無用の用のような楽しみを持って暮らすと、心を保つ事が出来ると、時々見せるその笑顔が物語って

いた。

また彼は目の前の田んぼのイネがあなた自身だと言う。その理由は、人間の体は次々と新しい細胞が生まれ、古い細胞は死んでゆく。それを何年か繰り返し続けた後には全ての細胞が入れ替わっている。その細胞を入れ替えさせてくれるのが主食であるコメである。つまり、目の前の田んぼのコメであなは成り立っているという論理だ。

生まれた場所で採れた米と野菜を食べてきた私は、出来の良し悪しは別にして、この土地の産物であり、極論すれば土から生れ出したことになる。死ねば土に還るとはよく言ったものだ。

うるかす

米を研いで水に浸けておくことをこの辺では「うるかす」と言う。何気なく使っているが、この言葉は『うる』+『かす』から成っているという。うるは潤うで水気を含んで生気を帯びるという意味。かす（すす）は米を水で洗うという意味があるという。

この言葉の語感から、秋田独自の方言だと思っただが、すっかりした二つの言葉の合成語である。今も東北の他の県や北海道で使われているというから、古い時代には日本で広く使われていた可能性もある。

また、この言葉は、米を研ぐ時の他にも使っている。例えば難しい問題が発生した場合、「少しうるかしておくか」などという。解決を急がずに時間を置くという意味だ。長い時間を潜り抜けて今も使われている言葉には味がある。

雑記 (26)

横山 仁

その司令塔 ワイクロフトの創業者 デビル・ゲイツ。

2009年2月25日世界保健機関の優生学会議における
ヘンリー・キッシンジャーの講演から。

「放知技」で、mespesado さんが、「コロナ・メモ【135】」2021/10/26 (Tue) で紹介している漫画「コロナワクチンを打つと不妊になるって本当! ?」
<https://ubugetedeco.com/life/taikendan/vaccination>」
(2021.10.22) を転載した。

*

「副島隆彦の学問道場」の「重たい掲示板」。
「3296 コロナ集団ヒステリー」(会員の福松博史氏、
2021.11.20) より。

(引用開始)

デザイナーズテント (世界支配層) の悪意ある命令。

「群衆が、強制ワクチンを受け入れたら それでゲームは終了だ。奴等 (やつら) はなんでも受け入れる。血液や内臓を大多数の為に強制的に寄付させたり、大多数の為に奴らの子供は遺伝子操作を受け入れて不妊にしてやる。」

羊の心を支配して、群れも支配するのだ。ワクチン製造会社は何十億ドルも儲け、今日 この部屋にいる物の多くは、その投資家だ。我々は群れの頭数を減らし、奴等是我々の絶滅サービスに金を払う。」

以上。

(引用終わり)

* 「3297」の真崎巖氏によれば、この講演自体、行われていないらしいとも (12.02)。詳しくは、次号で。

コロナワクチンを打つのが好きになって本当!?

作 産毛でこ

某コロナ受入病院医師監修※



※ 先生が勤務する病院から許可を得ることができなかった為、先生の実名と病院名は伏せ、容姿も変えています

そもそもワクチンは大きく2種類に分類されます

	生ワクチン	不活化ワクチン
特徴	<p>毒性を弱めたウイルスそのものを利用。それが体内で増殖して免疫を高めていく</p> 	<p>ウイルスを壊すなどして完全に感染力を失わせたウイルスやその一部を利用し免疫を高めていく</p> 
例	結核・はしか	インフルエンザ・日本脳炎

これに対し、ファイザーやモデルナのコロナワクチンはmRNAワクチンと呼ばれ…

- ① コロナウイルスには球体に**スパイクタンパク**というトゲトゲがついている
- ② この**スパイクタンパク**の設計図**mRNA**を**脂質微粒子**という人口膜でつつみ…
- ③ 更にそれを**PEG (ポリエチレングリコール)**でコーティングしたものを注射で体内に入れる
- ④ 体内に**スパイクタンパク**が作られ、その後**スパイクタンパク**の**抗体**が作られ、**コロナ**の感染を防ぐ

そのためのワクチン等のファイザーやモデルナのワクチンは全くの別物です

医者の中にはコロナワクチンはワクチンとは呼べず

核酸医薬品の類として考える専門家もいます

(2/10)

※ 核酸医薬品に関しては[こちらのサイト](#)が参考になります。



※1 「改造mRNAが人体の自然免疫を抑制する」についてはmRNAの生みの親である Katalin Kariko博士自身が論文を出しています。(当ブログにリンクを掲載)

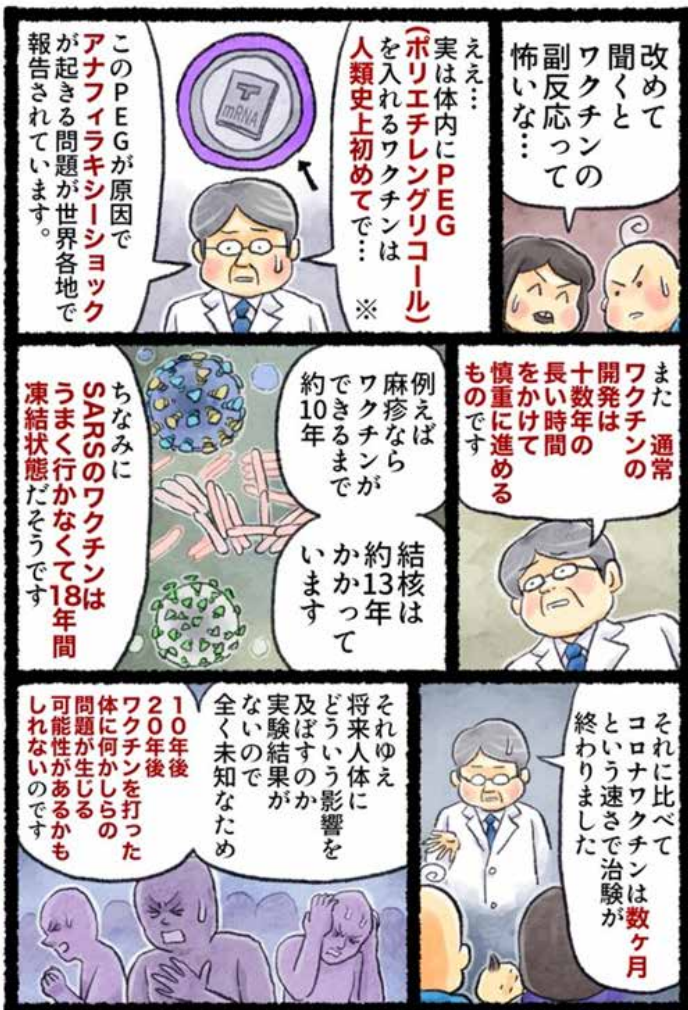
※2 先生曰く特にワクチン接種後に带状疱疹が増えた報告が非常に多い。逆に癌に関しての報告はまだ“非常に”増えているとは言えない。…とのこと

※3 ハーバード大学の論文のリンクを当ブログに掲載

(3/10)



(4/10)



※PEG（ポリエチレングリコール）が使われているワクチンは今回が初めてですがPEGに似たポリソルベートが使われているワクチンはあるようです。
（当ブログに厚生省のリンクを掲載）

(5/10)



(6/10)



(7/10)





(9/10)



おわり

※コロナワクチンを打つメリットに関しては、調べれば簡単に沢山の情報が出てくるのでこの漫画では割愛させていただきました。

ちなみにこの漫画の先生の考えでは「コロナワクチンを打つメリットは1つもない。あるとすれば、武漢株には効果があるだろう…」だそうです…。

あとがき

◆11月某日、散歩コースにあるクヌギの近くを、その日も通り過ぎようとしてふと見ると、黄葉の木全身が橙の明るく燃えるような色で立っていたのでおどろいた。ちょうど海の上の雲間から斜めに射す陽光を浴びて、みごとな照り映えだった。この偶然のせいで自分にとってちょっと特別な木になった。(S)

◆今年も雪の季節がやってきた。金子兜太の「定住漂泊」に流魄という言葉があった。るはくと読むようだが手持ちの辞典には載って無く、言葉の意味について図書館で調べてもらったが見つからなかった。知っている方がいましたら教えてください。(T)

◆YouTubeに「Meiko Kaji - Greatest Hits」というのもあって、Alex Sという人がアップロードしている。362,049 viewsとあるから、かなりの人がみたのだろう、コメントは英語等で書かれている。

I don't understand a word, but what wonderful voice and music. (F. Morello) また、ベートーベンのシンフォニーなどもコンプリートなものもアップロードされていて、ハイドンもビックリだ。(J)

◆いろいろな事が重なってモヤモヤがなかなか晴れない。算式にすればこんな感じかな。(3 哀惜 + 無力感)ⁿ + 現実…。ずっと除算に用いる係数を模索している。思えば来月はもう「年が明けた」1月。ならば、それを係数にしてもいいかな、と想ったりもしている。(B)

「海市」 第26号

2021年12月8日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方